

校長先生からの「のびゆくすがた」

2学期は、修学旅行や校外学習、学習発表会、マラソン大会、また、3年生以上の子どもたちは、いがまちにある3つの小学校の同じ学年の友だちと人権学習で学んできたことを交流する「三校交流会」など、多くの行事がありました。日々の学習とともに、そうした一つ一つの行事をなかまとともにやり遂げたことを自信として、3学期も、なかまとともに、いろいろなことに挑戦して行ってほしいと思っています。

冬休みには、新しい年を迎えるための様々な行事があります。そうした行事にも積極的に参加し、有意義な冬休みにしてほしいと思っています。ただ、インフルエンザ等の感染症は拡がりが見られます。生活リズムを崩すことなく、元気に冬休みを過ごしましょう。

1学期同様、校長先生から、「のびゆくすがた」を渡します。

【1年生】2学期は、家の人が、家でどんな仕事をしているのかをよく見たり、話を聞いたりすることを頑張りました。みんながともうれしそうに家族の発表をしているのを見ていて、みんなが家族に大切にされていることが伝わってきました。調べてみて、家の人がいろんな仕事を協力してやっていることに気がついたと思います。みんなも家族の一人です。冬休みも、自分にできる仕事を決めて、毎日、やり続けましょう。また、冬休みは、家族と過ごす時間があるとあります。家族と過ごした思い出を絵日記に書いて、みんなに教えてあげましょう。

【2年生】九九は覚えましたか？九九を覚えると、計算がとても楽しくなります。「上り」「下り」「バラ」どれでもぱっと言えるまで、冬休みもおうちの人といっしょに、繰り返し練習しましょう。2年生も、2学期には、家の人がどんな仕事をしているのか調べてくるのを頑張りました。「あ～疲れた。」「眠た～い。」と言いながら仕事から帰ってきても、「ご飯、何つくろうかな？」と考えたり、「今日は、学校でどうだったかな？」と、みんなのことを考えたりしてくれていることに気づきました。帰ってくるなり、みんなのことを、ぎゅ～っとしてくれる家の人もいるんですね。2年生のみんなには、そんな家族の思いに対して、自分には何ができるのかを考え、家族の一員としての役割を果たしてほしいと思います。冬休みも、自分に何ができるのかを考え、家族の一員として役割を果たしましょう。

【3年生】2学期の途中から、授業の時の姿が変わってきたなあと思っています。これまで、「みんなの前で、自分の考えを発表するのが苦手だなあ」と思っていた子が多かったですが、この前、授業を見に行ったら、友だちに自分の考えを伝えたり、分からないところを教え合ったりしている姿がたくさん見られ、「みんなで勉強しよう」という気持ちが伝わってきて、うれしく思いました。また、「『まなび～』、いやや。」と一番言ってくるのは3年生ですが、みんながちゃんとやってくるのも3年生です。そうした様子からも、学級の中に、「みんなでやろう」という雰囲気があるように感じています。3学期も、友だちといっぱい相談しながら、新しいことにも挑戦していきましょう。

【4年生】今でも、学習発表会での4年生の発表は思い出されます。練習を見たときには、声も小さく、自信なさそうに演じていた4年生でしたが、当日は、大きな声で、堂々と、また楽しそうに演じていました。最初は、「どうしてこんなに変わったのか」が分かりませんでした。でも発表を見ていると分かってきました。どのグループも、台詞だけでなく、身振りもつけて演じていました。「どんな身振りをつければ、思いが伝わるだろうか」「どんなふうに台詞を言えば、思いが伝わるだろうか」そんなことを、一つ一つ、グループで話し合いをして、練習してきたことが見ていて分かりました。そんなふうに、「なかまとともに創り上げた」という自信が、舞台での一人一人の姿に表れていたのだと思いました。これからも、一人一人が、声を出すこと、アイデアを出すこと、そして、それを受け止めることを大切にしていきたいと思います。

【5年生】5年生は、四日市公害でお子さんを亡くされた谷田輝子さんとの出会いから、二度と同じような過ちを犯すことのないよう、一人一人、何ができるのかを考えました。そんな中で、①「自分の思いを伝えることの大切さ」、②「真実を確かめ、行動することの大切さ」も学びました。そうした決意を、学習発表会や「三校交流会」で伝えている姿を見て、頼もしく思いました。3学期は、6年生の卒業に向けての準備や、新しい1年生を迎える準備といった、「最高学年」としての活動が始まります。「①お互いの思いや考えを伝え合い、②みんなで確かめ合いながら、自分から動く」。まさに、四日市公害の学習で学んだことが試される学期となります。「最高学年」としての自覚をもった姿を期待しています。

【6年生】2学期は大きな行事が続きました。修学旅行、三校交流会、学習発表会、「伊賀市部落問題を考える小学生の集い」。それ以外にも、委員会活動や他の学年のみんなに呼びかけの活動など、2学期は、6年生のみんなが力を合わせてやり切る、そんな姿が多く見られたことを大変嬉しく思っています。そうした行事や活動を通して、なかまと創り上げる喜びや達成感を感じている子どもも多くいたのではないかと思います。そんな中、「交流会」で、思いを伝えてくれたなかまに、何も返すことのできなかった自分を振り返り、その時の悔しい思いを、「次」へとつなげた子がいました。「交流会」もきっと、「どんなことを返せばいいのだろう」とその子自身も悩んでいたと思います。ただ、その時には、「思いを伝えてくれた友だちはどんな思いで帰るのだろう。」ということまでは考えられていなかった自分がいたことに気づいたからこそ、「次」につなげることができたんだと思います。卒業まであと2ヶ月半。6年生35人が互いの思いを伝え合うことで、識字学級のなかまに負けにくいぐらいの「かけがえのないなま」となって小学校を巣立っていくことを期待しています。



K.K 画伯作

みんな、よくがんばったので、全員、花丸です。3学期もがんばりましょう。
ご家族みなさんで、よいお年をお迎えください。